

# 7 5x5 MAGAZINE

信幸プロテック  
TEL 019-697-7200  
FAX 019-697-7209



-GO INTO ACTION-

GO INTO ACTION! - 空調 & 設備のレスキュー隊 -

## HEALTH MANAGEMENT

# 健康経営の取り組み no.1



代表取締役  
村松 守



2008年、岩手に来て5年目で第一子誕生の頃

「健康経営」という言葉をご存知ですか？当社で今年度力をいれて取り組む活動になるので、自分なりの想いを書いてみようと思います。

前職で商社の営業をしていた時は、残業や接待で帰宅が終電を過ぎることも多く、社会的にもそれが当たり前前の風潮でした。我ながら要領は良い方で、集中して膨大な仕事量を何とかこなしていました。休日にになるとその反動で体調を崩し、ベッドから起き上がれないこともしばしばでした。時代は変わり、自分が経営する立場となつてみ

## CASES 作業事例

今号はルームエアコンの取付の事例をご紹介します。 「自宅の2階にエアコンを取付けた」とご依頼を頂き、作業を行いました。1階にある室外機は隣家との距離が近く、より安全に配慮して作業しました。外壁の色が2トーン



エアコン室外機取付けの様子



## SOCIAL MEDIA

ブランディングチームで日々更新しています！

# SNS&HPでわたしたちの『今』を発信中

<p>5/12</p> <p>新レインコート</p> <p>レインコートをリニューアルしました。カラーは赤・白・紺を作業道具にも取り入れていきます。今日もよろしく相棒！</p>	<p>5/20</p> <p>sumururuワークショップ</p> <p>くまみアパートメントさんで折りたたみイスのペイントワークショップを行いました。個性が光る素敵なイスが完成です！</p>	<p>6/1</p> <p>住む〜ず公式LINE開設</p> <p>住まのホームドクター「住む〜ず」の公式LINEをスタート！登録の方にカップ麺をプレゼント中です。</p>	<p>6/7</p> <p>アウトドアフェスに参加</p> <p>ペイント体験をしてもらったためのボード「sumururuの木」はたくさんの方が触れて描いてくれて大きく成長しました。</p>	<p>7/1</p> <p>色とりどりのバラの花</p> <p>社員宅のお庭で満開となったバラを頂きました。素敵な気持ちになります！</p>
<p>5/27</p> <p>留学生さんに継続支援</p> <p>岩手・ベトナム青少年を支援する会さんに毎年お米の支援をさせて頂いています。本日御礼とともに写真を頂きました。</p>				

## BRANDING 新ブランディング活動

今号ご紹介するのは…「社内の観葉植物」



昨年新社屋へ移転した際に、お付き合いのある会社様などから観葉植物をたくさん頂きました。色味もサイズも大小様々で、豊かな植物に囲まれています。おかげでスタッフもお客様も落ち着くことができる空間になっています。

カモンくんとは？  
カモンくんは「住む〜ず」(一般住宅のエアコンや水回りなどの修理、室内外のリフォームを行っている部門)のマスコットキャラクターです。オーストラリアに住むカモンくんという動物をモチーフにしています。

STAFF スタッフ

「住む〜ず」マスコットキャラクター カモンくん

PROFILE  
オーストラリア出身。1996年頃入社。モットー：仕事はきれいに。特技：泳ぎ・縦列駐車。一言：奥さん募集中です！

## NEWS 最新！信幸プロテックニュース

新入社員2名入社

4/1に2名のサービスマンが入社。昨年入社したスタッフ(中央)も後輩ができてとても嬉しそうです！今後の活躍が楽しみです。

一番左：細矢、一番右：畠山

セミナー登壇

7/5にオンラインセミナーに村松・松原・藤村が登壇。働き方改革からのIT活用のリアルな状況、成功の秘訣など様々なテーマでお話しました。

※リコーxkintonxサイボウズ主催のセミナーです

仕事に効く！  
BOOK / だから僕たちは、組織を変えていける 齊藤徹(著)  
暗いニュースに値上げラッシュ。計画通りにいかないことが増え、業績も見通せない。多様性の時代でコミュニケーションも何だか希薄に。この本は、そんな不確かな日々不安を募らせる私たちの道しるべになつてくれるような本です。いわゆる「ビジネス本」が苦手な方も読みやすく、気になる部分から読み始めてもOK。  
日々の「何でうまく伝わらないんだろ」「もっといいやり方があったかも」の思いに明確ではないけど具体的な「答えらしきもの」をくれます。  
たった一人から影響の輪は広がり、組織は変わっていく。リーダーでもそうでなく、まず自分から小さなメッセージを送り続けることで「学習する・共感する・自走するやさしい組織」を目指したいですね。